発行：　めぐみバプテスト教会　（NO4）平成20年3月1日　編集責任者　湯浅　修

めぐみの糧

「人はパンだけで生きるのではなく、神の口から出る一つ一つのことばによる。」（マタイ4章4節）

死の恐れからの解放

湯浅　修

「死よ。おまえの勝利はどこにあるのか。死よ。おまえのとげはどこにあるのか。」
死のとげは罪であり、罪の力は律法です。
しかし、神に感謝すべきです。神は、私たちの主イエス・キリストによって、私たちに勝利を与えてくださいました。（新約聖書 第一コリント十五章五十五節～五十七節）

今年3月二十三日、イースター（復活祭）を迎えます。イースターは、イエス・キリストが死よりよみがえれ、死に勝利を治められた日です。私たち人間の最大の恐れ、また、敵は、「死」ではないでしょうか？

「青年たちのほとんどの心は、〝異性〟のことを思っている。
三十代、四十代の人々の心は、〝事業〟ことを思っている。
五十代、六十代以上の人々の心は、〝死〟という問題に心を支配されている。」

万里の長城をつくった、秦の始皇帝は、一度死を思ったら、不安で不安でたまらず、不老不死の薬を求め、蓬莱の島へ使者を遣わしたということです。
（「蓬莱の島」　東の海中にあり、仙人がすむ島）
その他偉人、著名人と言われている方のことばを少し御紹介致します

・釈迦「死ぬのが怖いのは、死にたくないと思うからだ。死ぬものだとあきらめなさい」（悟り）
・孔子「私はいまだに生がわからない。ましてや死がわかろうか」
・今東光（極道辻説法）
悩める人「和尚、私は死ぬことが怖くて怖くてたまりません。死ぬことを考えたら、生きていくことが出来ません。一体、死の問題をどうしたらよいのでしょうか？人間死んだらどうなるのでしょうか？」
今東光「おれが、知るか。馬鹿野郎、ぶっ飛ばすぞ！」
（本当に正直な方ですね！）

砂漠地方では、ダチョウを捕まえるのに、馬に乗って追いかけるそうです。ダチョウは、あまりにも図体が大きいので、駆けるにも駆けられず、走るにも不自由でうまくいきません。いよいよ追いつめられて逃げ場がなくなると、いきなりくちばしで砂を掘り、穴を掘ってその中に頭を突っ込んで隠れます。無論、大きなおしりは丸出しです。しかし、自分は敵が見えないため安心しています。そこへ近づいて網をかけて生け捕りにするということです。
「死」を考えないで、それでいて一時の不安を防ごうとする人は残念ながら、このダチョウの仲間と言えそうですが、読者の皆様はどのように思われますか？

さて、ここに、「死」という絶望の淵から、イエス・キリストを信じ、死に勝利された方を御紹介致します。国際派アナウンサーとしてテレビでも大変ご活躍された、山川千秋氏（1989年、五十六歳で死去）です。私が、学生時代に憧れたジャーナリストのお1人で、あの聡明なお姿を今も忘れることはできません。その山川氏が、突然、食道ガンを患い、しかも症状は手遅れでありました。奥様が御主人にガンであることを伝えた時、二人はただ黙って泣かれたそうです。山川氏は悩み、苦しみました。しかし、しばらくして奥様が通う教会の宣教師の先生がお見舞いに来られた際、山川氏は先生に

「わたしは死ぬことへの準備ができていません。どうか私を助けて下さい。」
と言われました。
そして、先生より、イエス・キリストの十字架と復活の事実を聞き、素直に信じられたのです。それから間もなく、山川氏は神様のもとへと移されました。病室には、残された2人の幼い息子さんと愛する奥様に宛てられた遺書がありました。奥様への遺書には次のように書かれています。

「きよ子。私の妻になってくれて十数年。地上では短かったとすまなく思います。しかし、わたしは本当に幸せでした。私はあなたによって二度生まれ変わりました。私はあなたに巡り合えたことで、あなたに感謝します。深く深く永遠に感謝します。このように計画された神に感謝します。私に、主に対する信仰を植え付けてくれたことで、あなたに感謝します。このように計画された主に感謝します。私は地上であなたを愛した。召された後も、永遠にあなたを愛します。私は心からあなたを愛したし、死後もあなたを愛し続けます。
私は愛の中に生き、今、愛の中に死にます。そして、今、主（イエスキリスト）の愛の中に新しく生き、あなたを待ちましょう。二人の息子を残されて、これからのあなたの人生は、決して平坦ではないことを知って、つらい思いでいますが、道は必ず開けます。二人の息子を信じ、たくましく生きてください。あなたなら、かならず、やってゆけます。なによりも、あなたがた三人には、主イエス・キリストの衣があるではありませんか。感謝と励ましと愛を込めて。山川千秋」
（『死は「終り」ではない』奥様との共著）

山川氏のように、私たちも、「死」という現実、また、恐れ、不安を解決することができます。イエス・キリストの復活を信じる方には、誰でもその勝利が約策されています。どうぞ、あなたもキリストを心の内に、お迎えください。
「わたしは、よみがえりです。いのちです。わたしを信じる者は、死んでも生きるのです」
（ヨハネ十一章二十五節）

めぐみバプテスト教会

東京都多摩市永山6-2-5 永井ビル2F

Tel&Fax　042-374-2311
木曜日夜 7:00～ 8:30　祈り会
日曜日 朝 9:30～10:25　日曜学校
朝10:45～12:15　礼拝
牧師：　湯浅　修(ゆあさおさむ)
メール：　qrdgp763@ybb.ne.jp
携帯TEL：　080-5053-9206
（湯浅）

～内村鑑三、ルツ子の墓を訪ねて～

多磨霊園には、多くのキリスト者の墓がありますが、その中で、最も有名なものは、内村鑑三と愛嬢ルツ子さんの墓でしょう。毎年、イースターの季節を迎えるたびに、私は、ここを訪ねては、父鑑三のルツ子さんへの想いを偲ばずにはおられません。キリストにある永遠の希望に感謝しつつ、ここに、前東京大学総長 矢内原忠雄氏(1893～1961)のことばを借用しながら、その葬儀の模様を読者の皆様にお伝えしたいと思います･･･(湯浅)

内村鑑三の愛娘　ルツ子さんの死

(1912年、明治45年　18歳にて永眠、鑑三52歳)
1912年1月13日
ルツ子の葬式を、天国に嫁ぐ結婚式とした(雑司ヶ谷墓地にて)

「私もどうにか、娘を嫁に出すことのできる父親になりました。
娘を嫁がせる父親には、熱い涙がこみあげるものだ、と聞いております。
私にもいつかその日がくることを信じ、心待ちにしておりました。
それが、今日。。。娘は、キリストの花嫁として、天に召されて行きました。めでたいことです。
私も天国に親戚をもつものとなりました。この正月、娘が病院で小康状態を得ましたとき、
"お父さんといっしょに旅行するか"と言いますと、娘は"天国へ行きたい"と申しました。
娘が好んで天国へ行ったのですから、どうして泣いたり、悲しんだりできるでしょう。
ここで、みなさんにお願いしたいことがあります。
どうか娘の旅立ちを、拍手を持って送ってやっていただきたいのです･･････」
賛美歌の流れる中、ルツ子さんの棺は、深く掘られた土の中に、静かにおろされていきました。
葬りのことばをのべ、祈りを終えた内村は、一握りの土を手に取り、突然、声高く叫びました。

「ルツ子、万歳！」

「我らは四人であった。
そして、今なお、四人である。
戸籍の帳簿に一人の名は消えて、
四角の食台の一方は空しく
四分合唱の一部は欠けて
さんびの調子は乱れたけれども
しかし、私たちは今なお四人である

我らは、今なお、四人である。
地の帳簿に一人の名は消えて
天の記録に一人の名はふえた。
三度の食事に空席はできたが、
残る三人はより親しくなった。
彼女は、今、我らのうちにいる。
一人は、三人をしばる愛の絆となった

しかし我らはいつまでもかくあるのではない
我らは後にまた前の如く四人になるのである
神のラッパの鳴り響くとき、
眠れる者が皆起きあがるとき、
主が再びこの地に来たり給う時、
新しきエルサレムが天より降るとき
我らは四人に成るのである。

(内村鑑三作)

「死」は、キリストを信じる方々には、「絶望」ではなく「喜び」「希望」にかわります。キリストは、死からよみがえられ、"その死によって、･･･死の力を持つ者を滅ぼし、一生涯死の恐怖につながれて奴隷となっていた人々を解放して"(聖書)くださったのです。その上、内村鑑三の如く、天国においての再会の希望に生きることができます。キリストは言われました。「わたしは、よみがえりです。いのちです。わたしを信じる者は、死んでも生きるのです」(ヨハネ11章25節)。そして、内村ルツ子さんの墓碑には、「再び会う日まで」と書かれてあります。(湯浅)

めぐみバプテスト教会の３月のご案内

3/ 9(土)　　午前10:45～　日曜礼拝
3/ 16(日)　　午前10:45～　日曜礼拝
3/23(日)　　午前10:45～　**イースター記念礼拝(当教会にて)**
(キリストの復活を覚えて聖書からお話しを致します。聖歌隊賛美有り)
3/30(土)　　午前10:45～　日曜礼拝
(＊教会の集会は、どれもすべて無料です)

あとがきにかえて

「めぐみの糧」第四号をお読み下り、ありがとうございます。

今号は、イースター(イエスキリストの復活)を中心に編集を致しました。編者の願いは、ひとりでも多くの方が、教会に足をお運びいただき、「死」と「死への恐れ」に打ち勝つ秘訣を見いだしていただきたいということです。

「死」を真剣に見つめることをしない、また「死」を茶化する風潮を危惧せざるを得ませんが、お読み下ったあなたが、キリストを信じ、真の平安と喜びに満ちあふれる人生にお入りになられますよう、心よりお祈り申し上げます。　(湯浅)

"わたし(キリスト)は、あなたがたに平安を残します。わたしは、あなたがたにわたしの平安を与えます。わたしがあなたがたに与えるのは、世が与えるのとは違います。"(ヨハネの福音書14章)

聖書通信講座のごあんない

誰でも無料で学ぶことのできる聖書通信講座があります。講座は幼児用から大人までのコースです。ご希望の方は、どうぞ、お気軽に当教会まで御連絡下さい。早速、スタートができます

TEL. 042-372-5693
メール. qrdgp763@ybb.ne.jp

(疑問・ご質問何でも、お問い合わせ下さい)